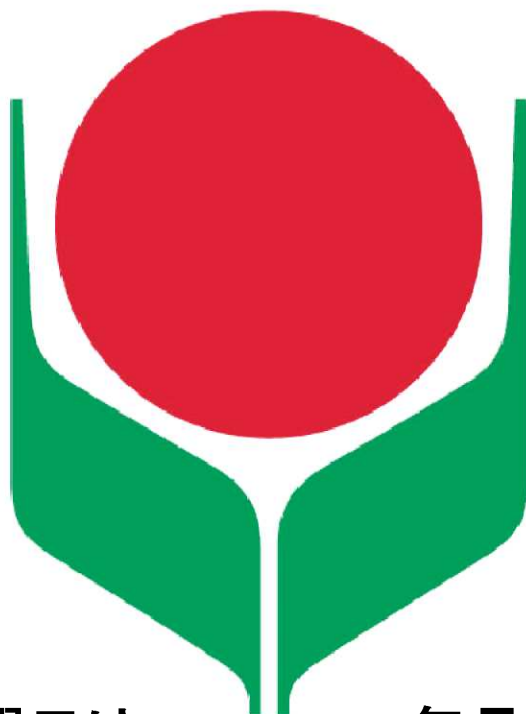


第15回

かんら家庭の日推進大会



**毎月第1日曜日は
家庭の日**

**毎月第1土曜日は
少年の日**

展示会

期間 令和4年3月6日から3月21日
場所 ら・ら・かんら 展示ホール

主催 甘楽町青少年育成推進員連絡協議会・甘楽町教育委員会
後援 甘楽町区長会・甘楽町校長会・甘楽町小中学校PTA連合会
甘楽町民生委員児童委員協議会・甘楽町更生保護女性会
甘楽町子ども会育成会連絡協議会



かんら家庭の日推進大会

「家庭の日」の運動は、1955年（昭和30年）に鹿児島県生まれ、群馬県でも昭和40年、子どもの日を記念して提唱され、毎月第1日曜日を「家庭の日」と決めました。また、昭和58年度から毎月第1土曜日を「少年の日」と定め、「家庭の日」と連動した青少年の健全育成のための県民運動が推進されています。

家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころでもあります。

また、子どもたちにとっては、生きるルールを覚える最初の学校であり、知らず知らずのうちに、人格が形成されていく場でもあります。

家庭がそのような働きをよりよく発揮するためには、家族みんなの心がふれあう明るい家庭づくりを進めることが大切です。

展 示 会

「ら・ら・かんら展示ホール 3月6日（日）～3月21日（月・祝）」

「家庭の日」「少年の日」標語 178点

「家庭の日」 作文 78点

「家庭の日」絵画・ポスター 79点

第15回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 標語の部】

| | 作 品 | 学校・学年・氏名 |
|-------|----------------------|-----------------|
| 最優秀賞 | あいさつは 笑顔をきずく 合い言葉 | 新屋小学校 6年 山内 晴斗 |
| | だいじょうぶ? 一つの言葉で 救われる | 甘楽中学校 1年 長岡 朱莉 |
| 優 秀 賞 | 「一人じゃない 家族がそばで 支えてる」 | 小幡小学校 5年 田村 瑛志 |
| | あいさつは 感謝を伝える あいことば | 新屋小学校 5年 太附 結心 |
| | 家族にも 感謝の気持ちを 忘れずに | 新屋小学校 5年 中山 梓杏 |
| | 全員が 笑顔で過ごす 家庭の日 | 新屋小学校 6年 黒澤 友稀 |
| | 大切に 家族で過ごす この時間 | 新屋小学校 6年 堀越 柚葵 |
| | 家族との 会話で広がる 笑顔の輪 | 甘楽中学校 1年 市場 しずく |
| | 変わらずに 元気をくれる 優しい手 | 甘楽中学校 1年 倉林 万優 |
| | 帰り道 家に灯るあかりに 急ぐ足 | 甘楽中学校 2年 鈴木 結奈 |
| | 楽しいね スマホじゃなくて 家族との時間 | 甘楽中学校 2年 武田 陽菜乃 |
| | 「ありがとう」 日頃の感謝を 伝えよう | 甘楽中学校 2年 野口 ゆら |

第15回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【少年の日 標語の部】

| | 作 品 | 学校・学年・氏名 |
|-------|-----------------------|-----------------|
| 最優秀賞 | 考えて 傷つく相手の 悲しみを | 新屋小学校 6年 平石 剛輝 |
| | 大丈夫? その思いやりを 大切に | 甘楽中学校 1年 桐生 大世 |
| 優 秀 賞 | ごみひろい ひろったあなたに 金メダル | 小幡小学校 6年 高橋 陽和 |
| | こどくじゃない となりをみれば 仲間いる | 福島小学校 6年 青木 愛莉 |
| | 気をつけよう インターネットの そのことば | 新屋小学校 5年 井澤 虎太郎 |
| | 「ありがとう」 笑顔あふれる 魔法の言葉 | 新屋小学校 5年 中山 梓杏 |
| | その行動 本当にいいか 考えて | 新屋小学校 6年 岸 七聖 |
| | 気付いてる? 傷ついているかも その言葉 | 甘楽中学校 1年 安藤 なな瑚 |
| | 考えて もどれなくなる そのまえに | 甘楽中学校 1年 石黒 紬愛 |
| | 友達と 会話で咲かせる 笑顔の実 | 甘楽中学校 1年 黒澤 実栞 |
| | 一度だけ その一回が おとしあな | 甘楽中学校 2年 神宮 一斗 |
| | 挨拶は 地域安全 魔法の言葉 | 甘楽中学校 2年 吉田 清花 |

第15回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 作文の部】

| | 作 品 | 学校・学年・氏名 |
|-------|---------------|-----------------|
| 最優秀賞 | 九人家族 | 福島小学校 5年 大野 紅羽 |
| | 家族とのかけがえのない時間 | 甘楽中学校 2年 富田 ありす |
| 優 秀 賞 | 家族での思い出 | 小幡小学校 5年 堀込 梨世 |
| | 家族との時間は一生の宝物 | 福島小学校 5年 植松 結希歩 |
| | 身近な幸せ | 新屋小学校 6年 佐藤 孝樹 |
| | 大切な人 | 甘楽中学校 1年 堀口 真奈 |
| | 一年に一度家族のごほう日 | 甘楽中学校 1年 森田 望花 |
| | 我家の絶対ルール | 甘楽中学校 2年 岡部 心春 |

家庭の日作文入選作品

□小学生の部

《 最優秀賞 》

九人家族

福島小学校 5年 大野 紅羽

私の家族は父、母、兄、自分の四人家族です。両親はフルタイムで働いているため、私は近くに住む母の祖父母にお世話になることが多いです。

私は保育園に二歳から通い始めました。保育園の送迎は、ほとんど祖母にしてもらっていました。具合が悪くなって保育園を休む時も、病院に連れて行ってもらう時も祖母に面倒を見てもらうことが多かったです。

小学校に通いだしてから、学校から帰るのは祖父母の家です。宿題、おやつなど親が帰ってくるまでの間は祖父母の家で過ごしています。習い事の送迎は祖父にしてもらっています。

小さい頃は元気だった祖母ですが、少しずつ認知症が始まり、物忘れがひどくなってきました。体力も低下し、私が夏休みに入ってから祖母は肺炎で入院しました。祖父と二人ぐらしなので、普段は祖父が祖母の面倒を見ていますが、祖父を休ませるために、母や母の姉が祖母の面倒を見ていたため、母の姉家族にお世話になることも多いです。母が祖父母の世話をするために留守になる時はさみしいけれど、小さい頃から面倒を見てくれた祖父母が大好きで、認知症になった祖母は少し可愛いのがまんします。

父もそんな母をできるだけ手伝っています。私と兄も、少しでも力になりたいくて、夕方帰ってきてからできるだけ父と母の手伝いをします。

祖父母、母の姉家族、自分の家族の九人がいつも助け合っています。

私の家族は四人家族ですが、私にとって、この九人みんなが家族です。とても大切なものです。この大切なもののために、これからも家族で助け合っていきたいと思っています。

《 優秀賞 》

家族での思い出

小幡小学校 5年 堀込 梨世

私はこの夏は家族みんなで東京オリンピックを見に行く予定でした。しかし、コロナウイルスが流行してしまい、見に行くことができなくなってしまいました。とても楽しみにしていたのにすごく残念でした。でも、その分、テレビで毎日家族みんなで日本の選手を一生けんめいおうえんしています。日本の選手が、金メダルをとったときは、とびはねてよろこんでいます。私は日本の旗を何まいも絵に書いてかべにはって、1個でも多くのメダルがとれますようにと願いながらおうえんしています。

その中で、ある一人のスケートボードの女子アスリートのお話を聞きました。その選手は、フィリピン出身で、貧しい生活を送っていましたが、スケートボードで色々な大会に出て賞金をもらえるようになって、家族に大きな家を建ててあげることができました。今回のオリンピックは、スケートボードの技をたくさん失敗してしまいました。でも、失敗しても、「NEXT」と言い彼女はずっと笑顔で楽しそうにしていました。スケートボードをできる事が、うれしいのだと言っていました。

私は、オリンピックでメダルをとることが大切なことだと思っていましたが、メダルが全てではないということを、この選手を見て感じることができました。私もスイミングで合格できない事がありますが、彼女みたいに笑顔で「NEXT」という強い気持ちで、がんばろうと思います。

《 優秀賞 》

家族との時間は一生の宝物

福島小学校 5年 植松 結希歩

私の家族は、父、母、兄の4人。私の両親は、看護師の仕事をしていていつも朝七時三十分ごろに家を出て夕方六時ごろに帰って来る。兄は中学生で部活や勉強をしていていそがしそうだ。

夏休みの平日、両親はいつものように出勤。兄は毎日、朝早くから部活に行く。そして私は家で一人。ということが多かった。一人でいるのは、さみしかったし、不安だったときもたくさんあった。でも、そういう思いをしたからこそ感じたこともあった。それは、「家族と一緒にいられるということは最高に幸せということ」だ。私は、正直いままで家族と一緒に過ごすことなんてふつうのことでなにも感じずに生活してきた。今、思い返すとすごいまちがいをしているなと思った。それになんだかそうに思ってきた自分が情けなく、くやしく感じてきた。家族と一緒に過せるだけですごく幸せだけど、家族と一緒に過せて会話して笑って、笑顔になることができたらものすごく幸せになれるということが分かった。それを想像しただけですごく幸せになってくる。

私は、いままでいろいろな家族との最高に幸せな思い出をつくってきた。夏休みには、登山をしているいろいろなことにきょうみをもちはじめたり、バーベキューをしてその時間を思いっきり楽しんだりしてきた。これ以外にもたくさん幸せな思い出をつくってくれた家族にすごく感謝している。

これからは、家族と一緒にいられるものすごく幸せの時間一瞬一瞬を大切に生活していきたい。それになによこの家族に生まれてこれて本当にうれしい。いつもありがとう家族。これからもよろしく。

《 優秀賞 》

身近な幸せ

新屋小学校 6年 佐藤 孝樹

ぼくは、家族で出掛ける事が大好きです。今はなかなか出掛ける事ができないけれど、釣りや海水浴、温泉旅行などを思い出すと楽しくなります。その楽しい思い出の中に魚があります。ぼくは、魚が大好きです。釣ること・食べること・見ること、全部が好きです。

釣りは、お父さんと二人で行くことが多いです。でも、家族で行くと違った楽しみができます。ぼくが、お姉ちゃんやお母さんに教えてあげることです。お父さんの釣り方を見て覚えたことを教えているのですが、

「すごいね。」

と言ってもらえます。魚が釣れた時と同じくらいうれしいです。また、釣りをしていると色々な人と会話をします。あいさつから始め、釣れているかどうか聞いてみます。あいさつすることは初めの頃は恥ずかしかったけど、返してもらおうれしくて、とても気持ちがいいです。

釣れた魚を家に持ち帰って下処理するのは少し大変だけど、新鮮な魚はとてもおいしいです。

お姉ちゃんが、

「豆アジが食べたい。」

と言った時、お父さんと二人で釣りに行き、たくさん釣ってお母さんに料理してもらいました。おいしく豆アジを食べるために、ぼくがゼイゴや内臓を取って、あとはお母さんにまかせます。ぼくが下処理をするのは、実はお母さんより上手だからです。釣りたての魚がおいしいのはもちろんですが、みんなで食べる食事はとてもおいしいです。

見ることにかんしては、水族館で魚を見ることが好きです。魚の動きを見ているとあきません。生きている魚を見るのが好きなので、海水浴の時に、シュノーケルをして海の中にいる魚をつかまえて観察していました。とてもおもしろかったです。

魚を通して考えただけでも、色々な体験をさせてくれるお父さん、お母さんに感謝の気持ちでいっぱいです。海釣りに行くときは、朝早く家を出て、気づいたら海の近くにいます。釣りを楽しんだ後、車に乗ったらもう家の近くにいます。行きも帰りもぼくはねているのにお父さんは運転してくれます。そして、家についたらお母さんが美味しい料理を作ってくれます。そんなお父さん、お母さんありがとう。

家庭の日作文入選作品

□中学生の部

《 最優秀賞 》

家族とのかけがえのない時間

甘楽中学校 2年 富田 ありす

私は、家族のことが大好きです。いつも仕事を頑張ってくれて、おもしろいお父さん。色々な家事を全てこなしてくれるお母さん。畑仕事や庭の手入れをしてくれているおじいちゃんも、私の話に付き合ってくれるおばあちゃんも、うるさくて生意気だけど、結局は可愛い弟も、みんな大好きです。でも、それを面と向かって伝えたことはありません。恥ずかしいし、照れてしまうからです。昔は父の日や母の日で「大好き」と手紙などに書いていましたが、最近はあまり書かなくなっていました。

最近のニュースを見ていると、事故や事件で小中高生が亡くなってしまうような内容のものをよく見かけます。近い年齢の子たちが被害にあっているのを見ると、決して他人事ではないように感じました。いつ家族と会えなくなるのかも分かりません。なので私は、今まで伝えられなかった家族への想いを日頃から伝えていこうと思いました。でも「大好き」とはさすがに伝えられないので、感謝の気持ちを伝えるようにしました。夕ご飯の時には毎回「おいしい」とお母さんに伝えるようにし、最近会話が少なかったお父さんやおじいちゃん、おばあちゃんともたくさん話すようにしました。すると、今まで何とも思っていなかった家族との時間が大切なものを感じました。毎日、「行ってらっしゃい」と「お帰り」を言ってもらえてることが、どれほど幸せなことかを知ることができました。感謝の気持ちを伝えたり、会話をすることがどれだけ大切で、かけがえのないものなのか強く感じることができました。

私は、家族のみんなが大好きです。でも照れくさくて言えないので、「大好き」にかわりに、「ありがとう」を伝えます。

《 優秀賞 》

大切な人

甘楽中学校 1年 堀口 真奈

私の家族は、四人家族です。父、母、兄、私の四人です。最近、母がいつもやってくれている、掃除、洗濯、洗い物、料理や、その他のゴミ捨てなどの中で、母が大変そうだったら手伝ったり、自分で出来ることを分担してやり始めました。父は、庭の手入れや、洗い物、洗濯など、たくさんやってくれています。兄は、お風呂掃除をしたり、洗濯物をたたむのを手伝ったりしています。私は、兄と一緒に洗濯物をたたんだり、休日は料理の手伝いをするようにしています。なるべく、母に負担をかけないように、自分達が出来ることは、言われなくても家族の一員として、やるように心がけています。

私の家族では、もう一つ心がけていることがあります。それは、あいさつです。朝起きたら、おはよう。食事の前は、いただきます。食事の後、ごちそうさまでした。など、家族の中でも、あいさつを大切にしています。外でも、あいさつは必ずします。地域の集まりの時や、通学時、学校などで、自分から明るいあいさつが出来るように心がけています。特に、父はあいさつに厳しいです。学校で、何かしてもらったことを話すと、

「お礼言ったの？」と毎回聞いてきます。小さい頃は、恥ずかしがり屋さんだったので、「ほら、あいさつして。」と、よく父に言われていたのを覚えています。そのおかげで、今は、自分からあいさつが出来るようになりました。平日は、ご飯の時間がバラバラなので、家族みんなとは食べる事が出来ないけれど、休日は家族みんなと食べる事が出来るので、テレビがついていても、会話がとてはずんでいきます。

私の家族は、みんな優しく、明るく、一緒に居て楽しいです。私が、高校生になっても、大人になっても、家族はとても大切な存在だと思います。だから、これからも家族を大切にしていきたいです。

《 優秀賞 》

一年に一度家族のごほう日

甘楽中学校 1年 森田 望花

私は毎年、一年の中でとても楽しみにしている日があります。それは、一年の最後、十二月三十一日の大晦日です。なぜ楽しみにしているのかというと、大晦日は普段はできない夜ふかしをしたり、家族みんなで年越しそばを食べたりと、いつもとは違いとてもゆっくりと過ごすことができるからです。そんな一日の中でも私が一番好きなのは、夕食の時間です。一年に一度のごほうびとして、みんなでカニを食べます。お父さんがカニの甲羅をバキバキと割り、お母さんがカニの身を取り出し、私と妹は夢中でカニをほおぼります。みんなで笑って会話をしながら食事をするのはとても楽しいものです。毎年、お父さんが「こうしてみんなでカニを食べられるのも、元気でいられたからだね。」お母さんも「家族そろってごちそうを食べられるのはありがたいことだね。家族のみんなに感謝だね。」と言います。私は、この話を聞いていると、一年間色々あったけど、家族全員でこの一年を終えられるのは本当に幸せなことだなと感じます。そして、来年もがんばろうとすることができます。そんな明るく楽しく家族と過ごす大晦日がとても好きです。

初めての中学校生活で、まだまだこれから大変なこともあると思います。また、コロナ禍で家で過ごす時間が増えるかもしれません。しかし、そんな中でもプラスに考え、家族との時間を大切に、乗り越えていきたいです。今年も家族全員で楽しい大晦日を迎えられたらいいなと思います。

《 優秀賞 》

我が家の絶対ルール

甘楽中学校 2年 岡部 心春

我が家の絶対ルール、それは全員で夕食の食卓を囲むことです。このルールを考えたのは母で、私が小学校五年生のときつくられました。このルールがくつられる前は、宿題などのそれぞれの用事が終わってから、それぞれで食べる、というようなとても寂しい時間でした。夕食の準備や片づけは全て母の仕事でした。今、考えると朝から夕方まで働いて疲れているであろう母に私はとても酷いことをしていたな、と思います。

ルールが発案された次の日、私はいつものように部屋で勉強していました。すると、リビングから「ごはん、できたよー！！」と母の声がしました。私がリビングにいくと父や弟たちは、みんな座っていてテーブルにはホカホカと、とてもおいしそうな夕食がならんでいました。いつもは、何も考えずに食べていた夕食も、母や弟たちの会話や仕事の話で大盛り上がりしました。私はこのとき、家族とのふれあいがどれだけ大切か、知りました。それから次第に夕食の準備や片づけは母の仕事ではなく、私たちの仕事になっていました。みんなで夕食をとる前は笑顔が少なかった母や父もみんな笑顔になって、夕食以外でも家族と話すようになりました。これからも、家族とのふれ合いを大切に、もっと仲良しな家族になれるように、頑張りたいです。